

○議長（茅沼隆文）

続いて、8番、和田繁雄議員、どうぞ。和田議員。

○8番（和田繁雄）

こんにちは。8番議員、和田でございます。

通告に従いまして、質問を読み上げさせていただきます。私の質問は、「土曜学校『あじさい塾』の運営について問う」ということで質問を進めさせていただきます。

教育の町を標榜する開成町が児童・生徒の学力向上を図るとともに豊かな心を育むためのプログラムを強力に推進することは、大変重要なことと考えます。土曜学校「あじさい塾」は、児童・生徒が地域や社会等を知る機会を設けるとともに、道徳心の育成、自主的な学習意欲の向上、体力づくり等をサポートし、学力や体力の向上を図ることを目的とするとあります。今後のあじさい塾が、まさに開成町の教育のあり方を体現するものとして充実、発展していくことを強く願うものであります。

平成28年度の実施結果が先日、明らかにされましたが、少なからず問題点、課題が浮き彫りになったと思えます。運営主体である教育委員会で、その総括、反省をされておりますが、課題克服の具体的アクション、これにいかに結び付けるかが肝要と考えます。教育委員会として、次年度はオール開成、これはもう最初からオール開成ということと言われておりますが、オール開成での実施に向けて広く連携を深めていくとしています。

そこで、次の質問をしたいと思います。1、プログラムの選定に児童・生徒の意見をどのように生かしていくのか、2、不参加の児童・生徒の意見はどう吸い上げるのか、3、関係者、これは講師ほかの行政内の他課等でございますが、との意思疎通を密接にするための手段は、4、あじさい塾の目的とプログラムの整合性の検証は、5、プログラムの周知の工夫は。

以上であります。よろしくお願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

それでは、和田議員の御質問にお答えします。

はじめに、あじさい塾について説明をさせていただきます。

本町の児童・生徒の多くは、文化的な活動やスポーツ団体など、いろいろな分野で活発な活動をしております。そうした中でも、あじさい塾は、子どもたちに学校での教育課程以外の時間に様々な学習や体験活動ができるよう、教育委員会が主体となって体系的・継続的に実施する事業として位置付けております。

あじさい塾の目的は、児童・生徒が地域や社会等を知る貴重な機会を設けるとともに、道徳心の育成、自主的な学習意欲の向上、体力づくり等をサポートし、学力の向上や体力の増進を図ることを狙いとして進めています。また、あじさい塾のコンセプトは、自分の頭や体や心を自ら育てようとする気持ちを持つことに主眼をおいており

ます。

教育委員会では、あじさい塾がより多くの児童・生徒等が参加できるよう必要な措置を講じるとともに、町部局等との連携や多様な経験や能力を持つ町民等から講師を選任し、オール開成での実施を目指しております。さらに、前年度の検証結果を今年度の計画に生かし、より良い事業の実施に努めております。

それでは、1点目のプログラムの選定に児童・生徒の意見をどのように生かしていくのかについて、お答えします。

あじさい塾では、毎回、講座を実施した後に、その日の感想などを「振り返り表」としてアンケート形式で参加した子どもたちから回収しており、その中で、今後、取り上げてほしい講座についても意見を聞いております。参加した子どもの意見としては、実験や体験できるものに人気が高く、今年度のプログラムには昨年度の「振り返り表」の結果を生かした内容により計画をしております。

次に、2点目の不参加の児童・生徒の意見はどう吸い上げるのかについて、お答えします。

あじさい塾は小・中学校の児童・生徒を全て対象としていますが、昨年実施した状況での分析では、中学生の多くは部活動に参加しており、あじさい塾への参加は延べ人数で8名にとどまっています。小学生では、高学年になるにつれて、スポーツ団体での活動や学習塾をはじめとした習い事に通っている実態がうかがえます。あじさい塾では、対象となる学年を限定したり、また、学びやすくするため募集人員を限定している講座もあります。

あじさい塾へ参加していない児童・生徒の多くは個々の活動を通じて様々な体験等で充実した日々を過ごしており、参加したくても習い事などにより日程が合わないといった児童生徒がいる一方で、興味関心が薄い子どもたちがいることも認識しております。あじさい塾に参加した児童・生徒は限られておりますが、回収している意見はその年代を代表した子どもたちの意見と捉えて、あじさい塾の運営に生かしています。

次に、3点目の関係者（講師、他課等）との意思疎通を密接にするための手段はについて、お答えします。

昨年度、あじさい塾を実施した中でも、いろいろな技能を持った町民の方々に講師として参加していただいております。講師の方々とは日程調整の準備段階から綿密に連絡をとり合い、意思の疎通を図り、他事業との違いや、あじさい塾の目指すコンセプトなどを明確にお伝えして、実施後には子どもたちの意見や感想を共有し、お互いに理解を深めていきたいと考えております。

次に、4点目のあじさい塾の目的とプログラムの整合性の検証はについて、お答えします。

それぞれ開催している講座では、子どもたちの興味がある学習体験テーマを選定して子どもたちの参加を促しております。また、あじさい塾では道徳心を養うことを重んじており、講座の開始と終わりには参加者が全員そろって礼をし、班編成をする際

には異学年や学校が異なる子どもを組むなど、ほかの人を思いやる心を養う場としても活用しております。

地域や社会を知る面では、地元の足柄茶を題材にした講座や開成町を知る講座を設け、体力づくりの面では持久走を題材とした講座も開催しているところです。あじさい塾全ての講座を通じて、コンセプトである「自分の頭や体や心を自ら育てようとする気持ちを育てる」を内容に取り入れた講座を開催しています。

続きまして、5点目のプログラムの周知の工夫はについて、お答えします。

昨年度、初めて実施した際には、年度当初に年間プログラムを組み、全児童・生徒に年間プログラムを配付し、講座ごとの参加者募集は学校の昇降口、町民センターに募集チラシを掲示するとともに、「あじさい塾ポスト」を設置し申し込みを受付けておりました。中には、子どもたちに人気があり応募者多数の場合には、抽選を行った講座もありました。

昨年度は年間を通じたプログラムを組んで周知しましたが、やむを得ず年度途中で日程変更をしたときなど、参加者に分かりにくい部分がありましたので、今年度は昨年の反省点を踏まえ、年度を3回に分けて学期ごとに募集を行い、周知した日程に変更等が生じないように工夫しております。

これからも講座を実施しながら不備な点については改善を重ね、「あじさい塾」の目的を達成できるよう取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

和田議員。

○8番（和田繁雄）

答弁、ありがとうございます。

先程の答弁の中から一つ感じるののは、土曜学校あじさい塾、今年で3年目を迎えておりますが、2年前、あじさい塾が開講されたとき、子どもたちの道德心の育成、オール開成での実施と、「教育のまち かいせい」にふさわしい内容にしていくのだという運営側のたいなる熱意は大変、私も関心を持ちまして、ほかの事業との違い、「ああ、これが初めて道德心とか郷土愛とか、これを宣言している事業だな」ということを実感いたしました。

最初から理想的な内容になるとは思えないのですが、年度ごとにだんだん充実していくのだらうと思っていたのですが、最近の状況を見ていると「ん、どうも違うな」という感じがちょっとしております。

そこで、もう一度あじさい塾、ほかの事業との違いが何で、今後、どういう形で進めていくのだと。私は、これは教育の一環だと思っていますので、やはり教育には理念、それと継続性、これが必要だと思いますので、理念について、もう少し。例えば、道德心とか郷土愛とか、非常に分かりにくい言葉になっておりますが、こういうものをもう少し具体的に。開成町は子どもたちにこういうものを教えて、子どもたちがこ

うなってほしいのだというものを明確に出していただきたいと思っているのですが、その辺のお考えはいかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

お答えします。

議員のおっしゃるように、3年目というのは、1年目は年度の末に来年度から土曜学校はこんな形でやりたいのだと、模擬的に中学校で幼・小・中の子どもたちを集めて一体感を持った中で、プロレスラーの大谷さんと呼ばまして、いじめと力で人を制圧したりすることはいけないのだよ、とにかくいじめはだめなのだよという形の中で、道德の主たる目的である人の優しさであるとか命を大切にするとか、そういう部分についての1回目を行いまして、形としては、そういう形の中で幼・小・中の子どもたちの交流を含めて実施したいなということが初年度の目的でございました。

その後、私たちが強く要望したのは、企業体験とか様々な社会で成功している人たち、あるいは失敗談を含めて、その人たちが学生時代に、あるいは小・中学校時代に、いかに自分たちがしたことが今につながって良いことと悪いことがあるのだよということを通して、子どもたちがやや学力的に落ちていたり意欲がなかった子どもたちが、そういう社会人の人たちの話を聞くことによって、「ああ、勉強は大事なのだな、小学校・中学校時代に授業をしっかり受けることは、社会に出ていったときにああいう人たちになれるのだ、だから自分はそういう人になるために一生懸命勉強しなくてはならない」、意欲感を持たせるということが大きな狙いでした。

ですから、一つ一つのコンセプトは、今、議員おっしゃるように「道德心」と大きく、くくってはいますけれども、人としての生き方として、こんな大人になりたい、自分は開成町の中でこういう仕事をしたい、こういう人になっていきたいのだということを描けるような、そういう体験をしたいというのがコンセプトでございます。

○議長（茅沼隆文）

和田議員。

○8番（和田繁雄）

ありがとうございました。

今回、3年目ということで、学期ごとのプログラム編成、なぜ変わったのか、スケジュールが変更しないようにという答弁をいただいたのですが、例えば外部の講師の方、運営をするいろいろな関係者がいますけれども、年間のスケジュールが決まっていなくて3ヶ月ごとのスケジュールで、本当に、今、教育長のおっしゃるような、そういう狙い。例えば、講師の方との意思疎通、参加する生徒たちの意見、こんなものがどういう形できちんと関連者が意思疎通をして進められるのか、大変難しい部分があると思うのですが、その辺の3ヶ月になった背景、本当にスケジュールの変更、これがないようにするためだけなのか、それ以外に何かあれば教えていただきたいと思

います。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

では、議員の御質問にお答えしたいと思います。

まず一つは、今、おっしゃられましたとおり、年間プログラムですと、ほかの事業との重なりというものが昨年は多くありましたので、そういったことがないようにということで、学期ごとに3回に分けて日程は組ませていただきたいと思います。そのほか、講師等の調整につきましても、なかなか年度末までの日程調整というのが難しいのもございますので、その辺も考慮した中で、やはり講師の方には、こちらのあじさい塾のコンセプトというものを十分に御理解いただく時間もとりながら、講師と意思疎通をしながら、できるような形で実施はしていきたいと考えているところでございます。

○議長（茅沼隆文）

和田議員。

○8番（和田繁雄）

私の質問は、それを具体的にどう進めるのか。言葉ではなくて、こういうふうに意思疎通をしながら、きちんと決められた内容を決められたスケジュールでやっていくのだと、それを全体、去年ですね、これと今年は何が違っているのだよと、その部分を知りたいと思っているのですが。そのところ、何かお考えがあれば教えていただけますか。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

では、お答えします。

学期ごとに正確な日にちは決めてあるのですがけれども、その他15コマ、こういう内容をやりますということは年度当初におおよそ決めてあります。ですから、一番難しいのは、突然入ってくる行事があったときに、土曜塾に来る子どもたちがいなくなってしまうということは大変、講師の方にも申しわけないということで、一つ、そこは反省点として3ヶ月ぐらいの見通しのもとにやっていこうということで、そこは検証した結果実施しました。

それから、今、和田議員がおっしゃっているように、講師との依頼の内容、それから、こちらの意図するもの、その辺につきましては、去年は担当が、こういう形であじさい塾運営要項をつくってありますので、その中の内容を講師の方に、「こういう形であじさい塾をやるので、ぜひ、そういう点について子どもたちに伝達してほしい、体験させてほしい」ということをお願いしてあります。基本的には、毎回内容は違っていても、目指すものは、あじさい塾開催要項の中でうたっている目的をきっちりと

講師の方をお願いして、こんな方向でやっていただきたいというふうに進めています。

○議長（茅沼隆文）

和田議員。

○８番（和田繁雄）

私が、なぜ、そういう質問をしたかと言いますと、昨年、講師をやられた方、この方から、何かお願いがあると任せきりになってしまって、その進捗状況、講師の方も内容的にこれで良いのかなと思ったときに、相談をしてもなかなか的確に答えがなかったと、こういうお話がありました。私自身は、本来、これはあってはいけないことだと思っていますので、そこを具体的に。先程、教育長から、そういう意志疎通は緊密にしていますよと言われておりますけれども、今年以降、だんだんそこは改善していくのだと。例えば、担当者がきちんと決まっていって、その方に聞けば外部の方は今の状況が確認できるとか、そういう具体的な手順は考えていらっしゃるかどうか、そこをお聞きしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

お答えします。

昨年の例で言いますと、１人、担当をきちんと決めまして、担当がそのことについて全て分かるように、また副主任として担当を補助する形で取り組んではいたのですが、何せ、年度としては２年目だったのですけれども、総合的に１８回あるいは１５回やるというのは初めてだったので、その辺についてはいろいろ不備があったり、あるいは講師の方にいろいろ御迷惑をかけたことは事実です。大変、申しわけないなと思っています。

それを含めまして、今年度は、先程お話ししましたように、あじさい塾の目的をきちんと説明した中で、できるだけ相互にできるように。「任せきり」という言葉がちょっと出たのですけれども、そういうつもりはなかったのですけれども、結果的に講師の方がこうやりたいということで、ある意味では押し切られたというか、そちらの形が主流になってしまったということは実例としてありました。その辺をきちんと説明できなかったという部分としては反省している面もありますけれども、今年度はそういうことがないように、「開成町として、オール開成でやるのだよ」、そして、「あじさい塾というのはこういう狙いでやるのだよ」ということをきちんと講師の方に御理解していただいて、その中で問題を解決しながら進んでいくという形でいきたいと考えております。

○議長（茅沼隆文）

和田議員。

○８番（和田繁雄）

ありがとうございました。

今後は、一つ、緊密にしていくのだということを確認させていただきましたので。

私は、先程、冒頭に申しあげました郷土愛とか道德心の涵養、2020年ですか、新指導要領、これの中でも道德心、相当大的な比重を占めてくると思うのですが、やはり「教育のまち かいせい」、この中で開成町としてこういうものにどう取り組むか、先駆的な事例ともなると思いますので。例えば、郷土愛、道德心の涵養、先程、教育長から、大体、大きなプログラム、中身は決まっていますよという理解をしておるのですが、どういう内容をお考えになっているのか、その辺、差し支えなければ伺いできますか。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（橋本健一郎）

では、お答えしたいと思います。

まず、基本理念につきましては、開成町に人づくり憲章がございますので、そちらに全てののっとってやっているということを御理解いただきたいと思います。その中で郷土愛ですとか道德心という中では、先程、答弁でもございましたが、道德心というとなかなか広い分野で、全てが本当に道德にかかわっているというところがございしますので、答弁書にもございましたとおり、礼に始まって礼に終わるということをまず徹底しております。あとは他人のことを敬うですとか、そういったことも全ての講座で実施しているところでございます。

そのほか、地域を知るという面では、昨年も行いましたが地元の足柄茶を知るとか、あと今後のことになりますけれども地元の酒匂川を知るとか、そういったところも取り入れながら、地元愛についても子どもたちに伝えていければというところで計画はしていきたいと考えております。

○議長（茅沼隆文）

和田議員。

○8番（和田繁雄）

まだ、具体的に、こういう内容でやるというところまでは決まっていないということでしょうか。講師の方、それも含めて決まっていないということですか。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

基本的には、昨年度の検証をしまして、子どもたちがやりたい、これが良かったというものは継続してやると。新たなものは、残ったものがありまして、去年できなかったものがありますので、そういうものを含めて、今、講師の選定をしていくという形で進めています。

○議長（茅沼隆文）

和田議員。

○ 8 番（和田繁雄）

分かりました。今、選定をしているということですね。ぜひ、良い内容にしていた
だきたいと思います。

それで、昨年度の教育委員会で 28 年度の総括をされている。この中のプログラム
18 個で、三つは実際、実行できませんでしたと、こういう結果になっております。
ここの参加人数をずっと見ていきますと、どうも親の関心、これの高いものが子ども
の参加率も高いのではないかなというところがありまして、子どもの意見を聞くとい
うのは非常に重要だと思いますが、親の方、こういった方々に、例えば開成町の考え
る道徳心、郷土愛、こういうものですよというものをどういう形で啓蒙していくのか。
大変重要な要素だと思っているのですが、その辺、何かお考えでしたら教えていただ
けますか。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

全く、その辺につきましては課題といえば課題なのではすけれども、先程答弁でもお
話ししましたように、どうしてもこちらが意図的に学習してほしい内容と、このよう
なものを学んでほしいという意図をこちらは持っているのですけれども、当初、そう
いう形で「土曜学校」という名前にしたのですけれども、やはり「学校」ということ
は「何となく上から教えられるもの、人から命令されるもの」ということがあって、
「子どもたちが意欲的に参加できない」と担当からありまして、それでは「塾」とい
う形で、自分の好きなものができるような形の「あじさい塾」という形にしていこう
ということで、これを一般化したものです。

ですから、今、おっしゃられるように、確かに、3 年生までぐらいの親子同伴でや
るものについてはかなり関心が強かったです。昨年であれば、たこづくりであるとか、
かなり多くの親子連れが来ていました。そういう中で、ではあじさい塾の狙いがどう
かということ、決して揺らぐものではなくて、低学年であっても同じように学習意欲の
向上であるとか人を敬う気持ちを育てるとか、そういう形で最初にお話をして、講師
の方もそういう話をして講座をしますので、そういう意味では、確かに少し偏りがあ
ったかなとは思いますが、なかなか、先程も言いましたように、中学生は 8 人ぐらい
しか来なかったということもありますし、こちらの呼びかけの仕方にも課題があるか
と思いますが、今のところ、ちょっと講座によって参加者の趣向が違っているという
ことも事実です。

ただ、その中で私たちが狙うものをはっきりとしながら、20 人であっても、やは
り意図的に指導するものは指導していくという講座も必要ではないかなと。あるいは
体験を重んじて、楽しくおもしろくできるものもしていく。その辺の組み合わせをし
ながら 15 講座を実施したいというのが 2 年目の実施の基本的な考え方でございま
す。

○議長（茅沼隆文）

和田議員。

○８番（和田繁雄）

ありがとうございます。大変、同感できるところがございましたので、次に進みたいと思うのですが。

先程、保護者の方、こういった方々に、どういう形であじさい塾、運営されていますよ、これを知らしめるかというお話をさせていただいたのですが、何人かの方に聞いてみますと、チラシを見ない方が多い。「え、あじさい塾なんかあるのですか」、こういう質問がありました。そういう方は何をしているか。スマートフォンとか、そういうものはよく見られるのです。したがって、子どもたち向けに対してもそうなのですが、グーグルでユーチューブがありますけれども、今度は子ども向けでグーグル・キッズとかを使いまして、発表されましたけれども、子どもたちにいろいろ、こういうものをやっていますよと、保護者の方には、この趣旨は何ですよ、狙いは何ですよ、こういうものを啓蒙していく。いわゆるインターネット、ＩＴの活用、これを教育委員会としても、もう少し積極的に進めても良いと思うのですが、その辺、いかがお考えですか。

○議長（茅沼隆文）

教育委員会事務局参事。

○教育委員会事務局参事（加藤順一）

お答えします。

ただいまの御質問なのですけれども、これは教育委員会の事業に限った話ではなくて、町全体でも取り組みの姿勢という部分がまた検討されているところでございます。ただ、教育委員会といたしまして、今、ユーチューブ・キッズですか、という特定のアプリを使うことを推奨するということはないのかなと。

基本的に、今、昨日も小学校の公開授業があつて、５年生、６年生対象、あわせて家庭教育学級も含めた中でサイバー教室というのを行ってございまして、ネットの利用に関しましてはネット利用の危険性を十分承知してもらわなくてはならないと。まず、そちらを先行して教育委員会としては考えてございますので、その次の段階として、またプログラム教育等がこの先ありますけれども、そういった教材開発は順次、国も進めているところでございますので、そういった中でいろいろなツールの開発もされるでしょうから、そういった中で、これが町として、教育委員会として活用すべきものというものがありましたら。多分、特定の開発されたアプリを、直ちにこれを推奨するとか取り入れるというのは、行政の立場としてはないのかなと考えているところでございます。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

和田議員。

○ 8 番（和田繁雄）

ありがとうございます。

今、参事から答弁がありましたけれども、I T、特にインターネット、国がつい最近調査したのですが、9歳までの子ども、インターネットに触れている、使える、そういった子どもの比率は40%だと。したがって、教育委員会としても、まさに今、前向きな取り組みをしていくのだと私は捉えたのですが、特にI T、教育の問題、いずれカリキュラムの中にも正式に入ってくるわけですが、こういったものにぜひ積極的に取り組んでいただければと思っておりますので。I Tアレルギー、これがないような形で、ぜひ進めていただければと思っております。

30分という時間、大変短くございまして、ああ、もう時間だなというのを認識しております。やはり開成町、6.5平方キロメートルという非常に狭い土地柄、資源も少のうございます。一番重要なことは開成町の未来、やはり教育がつくっていくのだらうと思っておりますので、ぜひとも、学校教育は言わずもがなですが、こういうあじさい塾とか、意味のある事業を今後ともぶれることなく継続して続けていただきたいということをお願いして。我々も何かお手伝いできることがあれば、ぜひ積極的にしていきたいと思っておりますので、そこをお願いして私の質問を終えたいと思います。ありがとうございます。